

平成30年度船員災害防止実施計画について②

今週は、「船員災害防止に関し重点を置くべき船員災害種類に対応した取り組み（対策）」について紹介します。
▽作業時における死傷災害と対策

『傾向』

- ・「転倒」（19％）、「はさまれ」（17％）、「動作の反動・無理な動作」（17％）で半数を占めている。
- ・「転倒」は、甲板上の通路、階段などでのつまずき・滑りなどによるものが多い。
- ・「はさまれ」は、用具や工具によるはさまれが多く発生し、漁ろう装置、漁具・漁網、甲板装置など動力機械にはさまれたものが全体的に多い。
- ・「動作の反動・無理な動作」は、用具・工具使用時の無理な動作や、不用意に飛び降りた際によるものが多い。

『対策』

船内安全衛生委員会や作業前ミーティングなどを通じて作業基準や手順の確認、ヒヤリハット事例集の活用やKYT（危険予知訓練）、KYK（危険予知活動）などの導入を含めたリスク低減対策の推進、若年船員などに積極的な安全衛生指導の実施を行う。

・転倒

船内の整理整頓や急な動作を控えるなどの対策を行う。

・はさまれ

慣れを排し、不注意に気を付ける、動力部には適切に覆いを付ける、不必要に近寄らないなどの対策を行う。

・動作の反動・無理な動作

作業方法を再検討するなどの対策を実施。乗下船の際には舷梯（げんてい）を確実に使用する。

▽死亡・行方不明率の高い災害と対策

『傾向』

- ・海中転落（50％）と海難（32％）で大半を占める。
- ・海中転落の特徴として、死亡率が非常に高い（71％）。

『対策』

・「海中転落の対策」としては、作業用救命衣など保護具の使用、乗下船時の歩み板の使用、波浪発生時の対策、生存対策講習会受講を推進するなどの対策を実施する。

▽漁船における死傷災害と対策

『傾向』

- ・一般船舶よりも災害発生率が高くなっている。
- ・漁ろう作業や漁具・漁網取り扱い作業などの漁船特有の作業中に多く発生（67％）している。

『対策』

- ・漁具・漁網などの投下作業中は安全確保対策を行う。
- ・甲板などの清掃（魚の血のりなど）により床の滑りを防止、ロープを張るなどの「転倒」防止対策を行う。
- ・ワイヤー・ロープなどの近くで作業する際にはその動きに注意を払い「飛来・落下」対策を行う。

来週は、「生活習慣病などの疾病防止」及び「パワーハラスメントの防止とメンタルヘルスの確保」に対応した取り組み（対策）」について紹介します。

平成30年度船員災害防止実施計画

<http://www.mlit.go.jp/common/001232486.pdf>

〔ファクスだより〕

2018年5月4日(金曜日)